



手術で使用する超音波メスを使い、鶏肉を切る生徒たち

最先端医療 中学生が体験 室蘭でセミナー

製鉄記念室蘭病院で医療機器を使って模擬手術を体験する「ブラックジャックセミナー」が開かれ、室蘭、登別両市の中学生17人が超音波メスや内視鏡を操作するなどして最先端の医療技術に触れた。

医師を志す子供に最新の医療への理解を深めてもらおうと製薬・医療機器メーカーが各地の病院と共催しており、同院では2014年に続き3回目。

12日のセミナーで生徒は医師の指導の下、刃先を1秒間に5万5500回振動させる超音波メスで鶏肉を骨に沿って切り落としたり、腹腔鏡を操作して人体に見立てた箱の中のさいころを動かしたりした。

皮膚を横したスポンジをメスで切り開き、その傷口を実際に手術で使う針と糸を使って縫合する体験では、医師が「メスはバイオリンを弾くようにすつと引いて」と助言し、生徒は「なかなかうまくいかない」となどと話しながら真剣な表情で手を動かしていた。

外科医を志望する室蘭中2年の中川遼哉さん(14)は「めったにできない体験ができてよかった」と話していた。

(生田憲)